

# 「奥迫池」の竣工式を開催

東部振興局  
都留 俊明



竣工記念碑と改修後の奥迫池

東部振興局農林基盤部が整備を進めてきた危険ため池緊急整備事業「奥迫池」の竣工式が三河国東市長をはじめとする来賓、地元受益者ら約20名出席のもと5月14日に開催されました。

奥迫池は、国東市武蔵町に位置し、改修前の斜樋は石造木柱、底樋は素掘で管理が難しい状況でした。また、堤体からの漏水も年々増加し、地震や豪雨が発生した際にため池が崩壊することが危惧されていました。そのため平成25年10月に改修工事着手し、平成27年12月に完成しました。

今回の改修により、水の安定供給・水管理が容易になるとともに農地13.7haと人家8戸の想定被害が解消されることになりました。

また、貯水池の一部がピオトープのような浅瀬となっており、カエルや小魚などが生息し国東半島の景観維持や生態系の保全にも役立っています。

# 国東こねぎトレーニングファーム2期生就農開始

東部振興局  
麻生 正男

国東市では平成26年に「国東こねぎトレーニングファーム」を設立し、こねぎ産地の担い手確保に向けた研修を実施しています。研修は国東市農業公社の専属講師の指導の下、こねぎ栽培の基本技術、栽培管理の実践、基礎技術及び就農制度の座学講座等を行っています。

今年4月には第2期生3名が、国東市内のこねぎハウスにおいて経営を開始しました。新しく建設したハウスで、土作りや畝の整形作業からはじめた農作業に、不慣れな面を克服しながら毎日精力的に取り組んでいます。

今回の2期生に第1期生4名を加えると、2年間で7名の卒業生がこねぎ産地の担い手となりました。

さらに、4月7日には第3期生の入校式を行い新たに3名が研修を開始しています。

国東市の味ーねぎ産地については、企業参入とあわせ若手生産者の新規加入により産地拡大と活性化に取り組んでおり、平成27年度の販売額が2億8千万円（前年対比150%）と大きく伸びています。



活発な意見交換がされる座学研修

# 農地を守るために 農事組合法人 榎来やまびこ 設立

東部振興局  
佐藤 公哉

高齢化で作付けできなくなった農地を借り受け、耕作放棄地をなくし地域の活性化を図ることで若者の農業に対する意欲を高めようと、3月8日に（農）榎来やまびこの設立総会が開催されました。

国東市国見町上榎来集落は中山間地域にあり、高齢化率が約65%では場条件も悪いため、農業の担い手が少なく農地の維持が課題となっていました。26年10月に集落内の農地や後継者不足等の問題を何とかしなければと、認定農業者を中心に農地を守るための組織の立ち上げが話題に上がり、その後何度も検討会を重ね、気持ち一つになった6名で設立に至りました。

組合員分とリタイアした15人の農地を合わせた3集落11haで水稻生産と、2haの作業受託でスタートします。高品質、良食味の米づくりに力を入れ、すでに顧客となっている名古屋、大阪、県内の消費者をさらに拡大していき、つながりを大事にした流通販売ともち米加工等の6次産業化を中心とした経営を考えています。離れた集落からも受託の依頼が来ており、5年後には20haの経営面積をめざしています。

米の低コスト生産と、農地の面的集積による規模拡大を進め、若者に引き継いでいける経営体になることを期待しています。



熱い思いのメンバー6名